



ベストペーパー賞を受賞した
三須副区長（右）と石原教授

風工学会ベストパート賞を受賞

JR東日本
三須氏ら 強風発生頻度の予測で

日本風工学会（山田均
会長）が主催する201
2年度（平成24年度）日
本風工学会賞の授与式が
このほど、仙台市の東北
大学青葉山キャンパス工
学部で開催され、JR東
日本八王子支社八王子運
輸区の三須弥生副区長と
石原孟東京大学大学院工
学系研究科社会基盤学専
攻教授の論文が同学会へ
ストーパー賞を受賞し
た。

論文のテーマは「風観
測と数値流体解析を利用
した運転規制区間内の強
風発生頻度の予測」で、
2012年度に同学会に
発表。鉄道の実運用を
目的に、強風時の運転規
制について研究した。

強風時の運転規制を過
不足なく行うためには、
規制区間の任意地点にお
ける強風発生頻度を適切
に評価する必要がある
が、論文では規制区間内
の多点同時観測と数値
流体解析を組み合わせる
ことで、1地点の風向き
・風速から規制区間内の
任意地点における1分間

最大瞬間風速を精度よく
予測できることを示し
た。

また、任意地点におけ
る年間強風発生頻度を予
測する手法も提示。従来
の手法では、強風発生頻
度が過小評価または過大
評価されることを明らか
にした。新手法では、防
風柵や速度規制などの対
策の効果を定量的に評価
することが可能となり、
社会的な意義が高く評価
された。

三須副区長は1996

年4月入社。受賞論文執
筆時はJR東日本研究開
発センター防災研究所気
象防災グループ主席、昨
年6月から現職。200
6年9月米国・マサチュ
ーセッツ工科大学大学院
修士課程修了。2011
年9月に東京大学大学院
工学系研究科博士課程を
修了、学位論文「風観測
と数値解析を融合した鉄
道運行管理のための強風
予測」で学位を取得して
いる。